

A-1 低・中・高別のめざす子ども像

本校では、以下のようにめざす子ども像を設定し、それに迫るための具体的な手だて（指導・支援のあり方）を研究することで、6年間をとおした系統的な指導のあり方を模索していきたいと考えている。

低学年：思いをもち、表出する子
中学年：考えをもち、聞き合う子
高学年：考えを出し合い、深める子

これは、単に発達段階に応じた子どもの姿をイメージするものではない。つまり、子どもの発達段階に応じた指標とすると同時に、課題解決のプロセスをイメージして、低学年では、課題に対して自分の思いをもち、それを表出する段階、中学年では、表出された思いや考えと自分の考えとの相違点や類似点を見出す段階、高学年では、多様な考えや事実を分析し多面的にとらえながら、課題に対して自分の考えを再構築する段階をめざすことを意味している。

このように、子どもの発達段階を縦軸、課題解決のための学習の流れを横軸としてとらえることで、課題解決に必要な思考力を6年間のスパンで系統的に育成していくことができるのではないかと考える。

そこで、本年度は、まず、めざす子ども像を授業の中での具体的な姿として共有化し、それに迫るための具体的な手だてを明確にして、その手だてが有効か、適切かを、研究授業を中心とした日々の授業研究をとおして検証していく。

